JULY 2007

鶴見大学文学部ドキュメンテーション学会

NEWS LETTER

Documentation No.5

ドキュメンテーション

■ 新入生入学、完成年度を迎えたドキュメンテーション学科

入学式後、教員・スタッフとはじめて顔を合わせる新入生

学会設立４年目を迎えて

── 全学年がそろい一層充実した取り組みをめざして

鶴見大学文学部の４番目の新しい学科として、2004 年４月にスタートした当ドキュメンテーション学科も、新入生を迎え、全学年がそろいました。そして、同じ年の７月２４日に発足したドキュメンテーション学会も４年目を迎えています。

ドキュメンテーション学会では、ドキュメンテーションに関わる諸科学の学際的研究を推進し、教員・学生相互の研鑽を積むという目的を達成するために、第１回から第４回まで開催してきたデジタルライブラリー国際セミナー、毎年実施している印刷博物館の見学会、希望者による撮影技術の見学・研修会、神奈川新聞社・テレビ神奈川の見学会、「１、２、３年生の交流会」など、様々な講演会や見学会を開催して来ました。また、学生や教職員の意見の交換や交流の場としてニュースレター「Documentation」を発行しています。これらを通じて、学生の皆様にとって通常の授業などでは得がたい様々な体験ができたのではないかと思っています。学科ホームページで詳しく紹介されていますので、ご参照ください（http://ccs.tsurumi-u.ac.jp/seminar/docu/documentation/home.htm）。

４年目を迎えて、１年生から４年生まで全学年がそろいましたので、学年を超えた交流をさらに活発にしてゆきたいと考えています。特に、４年生の皆様は大学生活の最終コーナーに入ってきました。最後に悔いの残らないように、学業の集大成としての卒業論文の完成に向けて奮闘していただきたいと思います。また、卒業後の進路を考えるうえで４年生から下級生へのアドバイスの機会を作り、４年生の体験や経験を生かした活動を行ってゆきますので、学生会員の皆様のより積極的な参加を期待しています。

ドキュメンテーション学会会長
学科主任
長塚 隆　Takashi Nagatsuka

大学生になっての新たな決意

大学生になって一番やりたいことはパソコンを上手に使えるようになることです。なぜかというと、これからの社会にパソコンは重要な役割を果たすので、少しでもできるようになりたいと思ったからです。

大学に入るまではパソコンをただゲームで遊んだり、ネットで情報を集めたりするだけで、あまりパソコンのことをよく知りませんでした。高校２年の時に情報の授業が始まり、パソコンの基礎的知識を教えてもらうようになりました。

授業を通じて少しずつパソコンのことを知る機会が増え、パソコンについてもっと知りたいと思うようになっていました。この鶴見大学に入ったのもパソコンについてもっと知りたく、そして上手に使えるようになりたいというのが一番の理由です。入学して３ヶ月、大学生活にも少しずつ慣れてきましたが、目標としているパソコンの達人への道のりはまだまだ遠いようです。

さらにこの４年間でパソコンの上達だけでなく、友達付き合いや様々な行事を通じて得られるいろいろな体験やふれあいを大事にしていきたいと思っています。

これからの大学生活いろいろなことがあると思いますが、今はとにかく前に向かって頑張っていきたいと思います。４年間を無駄なく楽しく過ごしていきたいです。

大川紀之
Noriyuki Okawa

「自学自習」「自立自制」

思い返してみると、４月の入学式から今日まであっという間でした。入学当初は、授業についていけるのか、まじめにやり通すことができるのかと、不安に思うこともありました。ですが、今は大学の講義がとても楽しいです。同じ学科には、自分の意見をはっきりと伝えることのできる人、専門知識に通じている人、私が持っていない能力・才能を持っている人がたくさんいて、自分ももっとがんばろうという気持ちになります。

また、鶴見大学の魅力のひとつでもある図書館の中をはじめて見て回ったときは、感動しました。今では毎日図書館に通っています。短い大学生活ですが、図書館を有効利用して、できる限り読書に時間を割きたいと思っています。

大学のリズムに少し慣れてきた今は、アルバイトを始めたり、ボランティア活動をしたり、各種検定に挑戦したりしています。

今まで、両親や学校の先生に甘えてきましたが、大学は自ら学ぶところなので、自分で自分を律していかなければなりません。どこまでやれるかわかりませんが、「自学自習」、「自律自制」を座右の銘に若いパワー（笑）で、充実した４年間を送ろうと思います。

渡邊 美登理
Midori Watanabe

新入生の声

情報を伝える手段がどんどん進化していく過程を展示物で見て、これからさらに進化していくのは間違いないと感じました。現在、情報を伝える手段はパソコンが主流になってきていますが、そのパソコンをどう進化させていくのか？　そのヒントが印刷博物館にはあった気がします。　（1年　平山 峻明）

今回の見学においてメゾチントと呼ばれる凹版印刷の技法には驚かされた。今日の普通の印刷には見られない職人の技、芸術性が感じられる。一見すると白黒写真と見間違えるほど精緻で、黒い背景に浮かび上がる鮮やかな濃淡で表現された木の質感、花の陰影は幻想的でさえあった。　（1年　平山 慧）

印刷工房で、活字で印刷する体験をしました。私は「Make haste slowly（急がば回れ）」という諺を活字で組み、印刷しました。自分が思っていたよりもずっときれいに、くっきりと印刷されたので、びっくりしました。昔の人たちが、あの技術を用いて印刷していたことを考えると大変なことだと思いましたが、その技術があったからこそ、現在に繋がっているのだなと感じました。　（1年　櫛間 麻未）

活版印刷の体験をさせていただきました。見学会の最後の質疑応答の時間に、「どうして活字は鉛で造られているのか」という質問がありました。学芸員さんが「鉛でないと柔らかさが足りず、文字の細かいところまでを表現するのが難しい」という解説がされて、納得しました。今まで知らなかったことを、今回の見学会でいろいろと自分の知識として身につけることができ良かったです。　（1年　南橋 大輝）

VR（バーチャル・リアリティ）シアターは本当にリアルで、プランタン邸の中を自分たちが移動しているのではないかと錯覚するほどでした。建物は柱から天井まで細かい細工がされていて、すごく美しいです。西洋の建築物が好きなので、実際のプランタン邸へ行ってみたいと思いました。　（1年　清水 杏子）

小学校の授業で版画を作成したことがありましたが、彫刻刀を使うのが難しくて、粗末な絵ができあがってしまったことを覚えています。そんな版画の技術を何百年も前から印刷の一つの方法として使っていたことにたいへん驚きました。芸術的な技で作品を作り上げている職人たちに感動しました。　（1年　塩田 隆三）

印刷博物館見学会

2007.5.12

「印刷博物館」への見学も３年連続となり、ドキュメンテーション学会の恒例の行事となった感があります。入学間もない１年生にとっては、同級生と親睦を深める良い機会にもなっているようです。

何を学んでいきたいのか？

太田有香
Yuka Ota

大学２年目になり、いよいよコース選択を考えさせられるような専門授業が増えだしました。

私がドキュメンテーション学科の入学を決めたのは、「本が好き」という気持ちから図書館司書になりたい、と思うようになったからです。そのため、入学当初から図書館関係の科目が多いライブラリーアーカイブコース（ＬＡコース）に進もうと漠然と決めていました。でも、実際に入学してＰＣを貸与してもらってから２年経ち、講義や自宅でＰＣを使用することが多くなるうちに、ＰＣの作業が楽しくなり、もっといろいろな事ができるようになりたいと思いはじめるようになりました。それによりコース選択に迷いが出はじめるになってしまいました。

だけど今、私はやっぱりＬＡコースに進もうと思っています。決め手になったのは、「くずし字」の存在でした。はじめてくずし字を見た時は、こんな英語の筆記体のような線の塊を、正しく読める日がくるのだろうかと、正直、不安な思いでした。実際、書き手によって全く文字の書き方が違うせいで判別できないことも多いし、文字と文字が繋がっているものは区別ができないと頭を抱えることばかりでした。でも、あきらめずに繰り返し読むことが実ったのか、次第に見た瞬間に文字が浮かんでくるようになりました。その時自分の知らなかった世界が大きく開く喜びを知るとともに、これがすらすら読めるようになったら、過去の書物へ通じる世界を、たくさん人に紹介することも可能なのではと、また、今よりももっと本に深く係われるようになるのではないかと思いました。

コース選択のために、さまざまな授業を体験することは、自分自身が改めて何を学んでいきたいかを気づかせてくれる大事なチャンスでした。

学生の声

２年生・２年目に考える

大学生活が二年目に入りその約半分が過ぎました。電車での通学や図書館の利用など去年に比べるとだいぶ慣れてきたように思います。そして、いろいろと目白押しな２年生ですが、そんな僕自身もはたして乗り切れるか心配です。いろいろ忙しいのですが、それは充実していることの裏返しかもしれません。

折り返し地点と言うにはまだ早いのですが、はたして単位は大丈夫か、さらにこれからの就職活動などもあり、不安でありながらどことなく「どんなことがあるだろうか」と言う期待感もあります。去年までは、大学生活に慣れるまで特に部活などをしていなかったのですが、今年は何かしら新しいことをはじめたいと思います。

ただ、いざ何かをやろうとすると何から手を出そうか考えてしまいます。してみたいこともありますが、やらなきゃならないこともあるのですから考えてやらないといけませんが、あまり考えてばかりでも始まりません。「案ずるより産むが易し」、とにもかくにもやってみればなるようになるでしょう（そんな考え方で大丈夫か？ とまた不安になり、でも「案ずるより？」と言うし、いやいやそんなんでは、いやいや……嗚呼、永久ループ）。

案ずるよりも産むが易し？

白倉弘崇
Hirotaka Shirakura

本当にいろいろ気になることはたくさんありますが、今、いちばん気になるのは、去年５、６匹は大学近辺で見かけたノラ猫を、最近あまり見かけなくなったことでしょうか。

教員より

アナタも社会人たれ！

── 会社で働いていた時の私から学生さんを見て

元木 章博　Akihiro Motoki

「この資料は使い物になりません。明日までに直して持って来て下さい。」

こんなことを言われたらアナタは、どうしますか？　やっぱりヘコみますか？　「アイツが、ひでぇ言い方でさぁ…（泣）」とか「俺、ダメだなぁ」と友だちに愚痴を漏らしますか？

実は、最初の発言は私のものです。「教員として如何なものか」と、ご意見を頂戴するかもしれませんね。いやいやちょっと待って下さい。これは前の会社でプロジェクトマネージャーをしていた私の発言です。会社に勤めていた頃の「いつもの」発言です。「そんな会社、勤めたくないなぁ」なんて思っている人が、いるかもしれませんね。でも、よく読んで、言葉自身そしてその裏にある意味を理解しようとしてみて下さい。最初の言葉は、アナタをバカにするための発言ではありません。あえて言うならばアナタの仕事への姿勢に対する注文は入っているかもしれません。

さて、一体どういう意味なのか？　これを一言で書くなら「頑張れよっ！」ということです。もちろん、アナタを励ますための言葉です。締切前までに完了できる見込みがあるから励ますのです。ですから、私は「アナタは仕事が出来る」と思っているので、最初の発言になるのです。「締切日が近いけど、アナタは頑張れば仕事が出来るので、明日までに直して持って来て下さい。」こういった意味なのです。

ところが、締切日まで、もう時間が無いという状況になった場合ですと「○○さん、頑張ったね。ところで、こっちの仕事を来週までに片付けてくれませんか。」と言って、○○さんから現在の仕事を奪います。この言葉は、いかがですか？一見、優しい語り口に見えますね。この文の意味は以下の通りです。「残念ですが今のアナタでは締切までに仕事を完了することが出来ないのでもうこの仕事はしなくて結構です。その代わり、こちらの仕事をして下さい。」 もうお分かりだと思いますが「仕事を完了する」というのは「締切までに完成する」ということです。特にお客様がある仕事ともなれば締切は絶対です。締切に間に合わないということは次回以降の仕事が貰えなくなることと同義です。これは非常にシンプルな話で、○か×かの世界です。間に合ったのか、間に合わなかったのか、ただ、それだけです。

アナタは遅刻した時に言い訳をしていませんか？　バスや電車は遅れるものなのです。お客様先で打ち合わせがある場合、午前 10 時先方へお邪魔するのであれば、せめて午前 9 時半目標で移動開始し、先方の受付には 5 分程度前にお伺いする様にします。遅刻は有り得ません。途中で電車が遅れようが、おなかが痛くなろうがそれはビジネスとは関係の無いことです。もちろん、積み重ねが大輪の花を咲かせることも多々あるでしょう。しかし、アナタが 3 日間連続で徹夜したかどうかということは成果には関係ありません。ということは…締切手前の経過は成果とは無関係、ということです。どんな段取りで行ってもいいのです。お客様先へどんな交通手段で移動しようが、約束の日時に間に合えばいいのです。社内向けであれ、社外向けであれ、締切に間に合わせるのは大前提です。

と、ここまでまるで会社に勤めている人のみに向けて書いている様に見えたかもしれませんが、そんなことはありません。学生さんだって立派な社会人です。人間社会を構成している一員です。自信を持って、仕事（勉強？）に取り組んで、成果を上げて下さい。

最後に、元木研究室の諸君には、いつも言っている言葉なのですが、「死なない程度に頑張って下さい。言い訳は不要。結果を出して下さい。」を皆さんにプレゼントします。

そういえば、最初の言葉は確かにプロジェクトマネージャー時代の言葉でもあるのですが、最近も使ってますね、私。

マークアップ言語のグリーナ

Gleaners of Markup Languages

大矢 一志
Kazushi Ohya

No.1　空白文字

マークアップ言語というものをご存じですか．Web ページを書く時に使われる HTML は，マークアップ言語の仲間です．おそらく HTML は，一番知られているマークアップ言語でしょう．最近では，新しいマークアップ言語として XML というものが注目されています．例えば，Google では地図を検索・表示することができますが (e.g.http://www.tsurumi-u.ac.jp/about/accessmap_1.html)，そこで使われているのは XML です．

書店にゆけば，XML の解説書を何冊か読むことができます．その中には，マークアップ言語そのものについて解説されているものもありますが，残念ながら詳しくは書かれていません．そこで，これから何回かの連載で，マークアップ言語について，入門書には書かれていない，でも実際に使うとよく直面する疑問・問題について，解説してゆきたいと思います．ちなみに，ドキュメンテーション学科では，2 年生の後期から XML を学ぶことができます．

ここでいきなりですが，まず謝っておくのは，マークアップ言語とか XML とかの基本的な解説はここではしません．1 年生や高校生にはすいません．図書館で XML の入門書を読んで下さい．この連載では，図書館では読めないであろう内容を紹介したいと思います．

第 1 回目は「空白文字」類と呼ばれているものを紹介します．空白文字とは，「文字」の仲間です．この場合の「文字」は，マークアップ言語における文字，という意味になります．SGML(というマークアップ言語) では，「文字」はユーザが規定するものでした．これは結構大変な作業です．しかし最近注目されてきた XML(1.0) では，文字は次のように決められています．

図1

```
[2]Char::= #x9 | #xA | #xD |
        [#x20-#xD7FF] | [#xE000-#xFFFD] | [#x10000-#x10FFFF];
```

XML では，すぐに文字を入力して使うことができます．ここに書かれている内容の解説は別の機会に譲りますが，ここで「空白文字」類は「文字」として定義されています．該当するのは，次のものです．

図2

```
#x9 // HT ( 水平タブ \t)
#xA // LF ( 改行 \n)
#xD // CR ( 復帰 \r)
#x20 // SP ( スペース )
```

ここにある 4 つの「いわゆる文字」(文字！とははっきり言いづらいという意味) は，私たちが日常使う文字ではなく，通信の世界における文字として考えられています．例えば，この 4 つはそれぞれ「右 (横) にずれる」「縦 (下) にずれる」「左 (横) にずれる」「右 (横) にずれる」ことを意味する文字になります．この「ずれる」という意味を持つ文字を，いわゆる「空白文字」と呼びます．この通信で「ずれる」とはどういうことなのか，この話はまた別の機会にしましょう．

XML では，このわけの分からない文字が「連続する場合は，1 つにまとめる」ことになっています．例えば，図 3 と図 4 は，同じく扱われます．

図3

```
a b
```

図4

```
a
      b
```

つまり，人が見た目では，配置が異なっているものを，同じように扱うのです．プログラミングを習ったことがある人は，この意味が分かると思います．機械で処理することを前提に書いたプログラムのソースコードでは，人が読みやすいように改行したり，空白を開けたりしても，それは全くプログラムには影響がありませんでした．これと同じことです．但し，ソースコードと XML の重要な違いとして，ソースコードはプログラムが理解する為に書かれたものですが，XML は，プログラムだけではなく，人間が読むことも考えられて書かれるものです．つまり，「空白文字」は，簡単に無視されては困ることがあります．そのため XML では，この空白文字を指示があるまでは勝手に変更しないように，と決めることができます (規格書の 2.10 節)．従って，図 3 と図 4 のデータは，XML では異なるものとして扱うことも可能です．この詳細も，また別の機会に譲ります．

今回は，もう一つの話をして終わることにします．
「空白文字」の中にあった，

図5

```
#xA // LF ( 改行 \n)
#xD // CR ( 復帰 \r)
```

という 2 つの文字は，「いわゆる改行文字」と呼ばれています．ここにはコンピュータ業界の複雑な事情 / 現実があります．素朴に「改行」の意味を考えれば，紙に文字を印刷するとき，新しく「行」を変えて書き始める (印刷する) ことになるでしょう．(「改行」を素朴に考えないとどうなるか，これは面白い問題です．) 実は，この「改行」を意味する記号 (文字) は，コンピュータによって異なっているのです．

例えば，ウィンドウズの「改行」を意味する文字 (列) は CRLF です．昔のマックの「改行」は CR でしたが，今のマックは LF になっています．これは，マックは，MacOS X を境に，Unix へと (美しく) 変態してしまったからです．もちろん，Unix の改行文字は LF です．中には，変態的に「LFCR」という文字 (列) を改行として使っている機械もあります．こうなるともう，何でもあり，という感じです．

新しい通信ソフトで，この「LFCR」に対応していないためにバグが生じた，ということがありました．
これは，規格に頼りすぎた悪い例でしょう．昔の話をすると，例えば HyTime(という古いマークアップ言語) や，もっと古い MSKermit(という通信ソフト) では，「LFCR」も改行文字として想定されていました．規格に頼らず，世の中の実態に合わせる，という姿勢も大切なことです．ちなみに，XML では，図 5 のうち「#xD」は全て削除または「#xA」に置き換えらることになっています．

ライブラリーアーカイブコース

意欲を持ってできる勉強を

仲田 裕
Hiroshi Nakata

3 年生になると、DD コースと LA コースに別れ、より専門的な知識を学ぶ事になります。
私は当初、DD コースを選択するつもりでした。パソコンは高校生時代から使っていたため、多少とも扱いに慣れていたからです。しかし、私は LA コースを選びました。2 年生のとき、LA の授業で初めて学ぶくずし字や書誌学の専門用語に最初の頃はとまどいを感じましたが、慣れてくると徐々に面白さに気づき、興味を引かれていったからです。

LA の授業で最も魅力を感じたのは、古典籍を実際に手にとって調査をすることが出来ることです。本の感触、重みを実感できるので本が好きな人には堪りません。

鶴見大学図書館は良質な貴重書を数多く有しており、書誌学的研究を学ぶには最高の環境です。全国の大学図書館を見ても、ここまで揃えている図書館はほとんど無いでしょう。

また、LA コースには司書・司書教諭課程に必要な授業がいくつかあり、DD コースよりも資格が取得しやすいです。

3 年生になり 2 ヵ月半 LA コースの授業受けてみて、やはり難しいけれど、その分やりがいがあるなと感じました。漢字のくずし字や細かい古版本、古写本の調査等、先生からの厳しいチェックも入り、なかなか大変ですが、徐々に理解が深まってくると時の流れが早く感じるほど熱中できます。

どちらのコースを選択するにしても、自分が興味を持ち、モチベーションを高く保てる方を選択することをお勧めします。やはり意欲を持って勉強できるのは良いことですよ。

BOOK REVIEW

横山　學『書物に魅せられた英国人　フランク・ホーレーと日本文化』
（吉川弘文館　歴史文化ライブラリー 163　2003 年）

書物に魅せられた日本研究家フランク・ホーレー（1906-1961）の人生を描いた書。研究のために収集した「宝玲文庫」は戦中「敵産図書」として接収され、罹災。戦後「ザ・タイムズ」紙の特派員として再来日、奪還に奮闘する。しかし、その蔵書も没後一部を残し散佚する運命に（ハワイ大学と天理大学に一部伝存）。和紙の研究者でもあったホーレーは、「和紙は世界中で最も美しい紙です。和紙には日本人の人格が表現されている。紙すきの女の仕事を見ていると少しでも黒いところがあると捨てる。非常に仕事が丁寧です。日本人の人格の良さが象徴されている」ということばを残している。　（伊倉史人）

＊鶴見大学図書館の請求記号は 289.3/H（開架・一般）

デジタルドキュメンテーションコース

苦労をするなら好きなものを

森 麻祐子
Mayuko Mori

３年になり、ＤＤコースに進んでから早くも３ヶ月目に突入しました。専門コースに進み、講義内容がより深く、濃くなっていく中、心なしか課題も増え、それをこなすのに手一杯な日常に翻弄され、あっという間のことでした。

実は私はコース選択の際、ＬＡにしようかとも考えていました。それは、「専門コースのＤＤに行って果たして技術的にも知識的にもついて行けるのか？」という不安があったからです。私は器用な方ではなく、ただ「パソコンが好き」という何とも単純な思いしかなかったので、段々と講義内容が難しくなっていく中でそんな考えが出てしまっていました。無難にＬＡの単位も取っていたので十分選択が変更可能だったことも助長してしまっていたのかもしれません。それこそ本当に最終コース選択のプリントを前にした時も悩んでいたものでしたが、「どうせ苦労するなら好きなものがいい！」とＤＤコースにしたのです。

そして、それは間違いではありませんでした。時々、内容が理解できなくとも友人達と相談しながら進めていく授業はとても充実しています。もしも、あの時点で安易な気持ちでＬＡに進んでしまっていたら、とても講義について行けず、やる気も起こらなかったでしょう。技術云々の問題ではなく、「自分が何をしたいか」。この気持ちが如何に大切なものか解ったことが大きな収穫だと思っています。

そんな気持ちを抱きつつ、最近は「就職」という言葉に焦りを覚えつつあります。未来への不安は尽きることがなく、今でも手探り状態ですが、自分のやるべき事を模索し、一生懸命こなしている友人達に負けぬよう、自分を見失わないように一歩一歩進んで行くことが今の私の目標です。

学生の声

３年生・コース選択に迷って

ドキュメンテーション学科の学生は、３年生になると、図書館学や書誌学を中心に学ぶライブラリーアーカイブコースと、情報学を中心に学ぶデジタルドキュメンテーションコースの、いずれかのコースを選択することになっています。

ゼミ

4年生・ゼミ生による研究室紹介

始動！

いよいよゼミが動き出しました。この夏休みには、中間発表を行ったり、合宿をして勉強会を開いたりと、４年生は卒業論文の完成に向けて汗を流しています。ドキュメンテーション学科最初の卒業生となる４年生が、どんな卒業論文を書くのか、期待され、注目されています。

長塚ゼミ

長塚教授のゼミでは、各々が自由な発想でテーマを定め、研究を進めています。携帯電話、古典籍、野球などに関わることまで個性豊かな内容を、活発な質疑応答で刺激を与え、支え合い論文を作成し ていくことのできるゼミです。（安藤　慶）

岡田ゼミ

岡田ゼミでは、卒業論文指導を主に個人面談という形式で行っています。そのため、一人に割り当てられた約２０分の間に先生とよく話し合うことができます。ゼミ生同士の交流は普段はあまりありませんが、月に一回ゼミ生が卒業論文の進行状況をパワーポイントを使用して発表する機会があります。この時はゼミ生が集まるため、卒業論文発表へ向けての練習になるとともに、他のゼミ生と交流することができます。（山田千鶴）

原田ゼミ

原田研究室は男子４人、女子６人の 10 人で２月から卒業論文テーマを考え始め、活動してきました。教室や図書館が主な活動場所です。前期の初めは『アカデミック・スキルズ』（佐藤望編著、慶應義塾大学出版会、2006 年）を使って全員が発表し、論文の書き方などを学びました。論文テーマは、鶴見大学の図書館、公共図書館、学校図書館の利用やサービス、レファレンス、メディアの比較など様々です。９月末に旅行を兼ねた合宿も企画しています。（佐田友視）

堀川ゼミ

堀川ゼミでは、古典籍を調べたりしています。私は祖父が所蔵していた蔵書を１冊ずつ調べて、目録を作る研究をしています。祖父は曹洞宗の僧侶でした。そのため、曹洞宗に関する内容の本がほとんどです。祖父の書き入れが多くあるので、その点も研究するつもりです。（浅見真衣）

大矢ゼミ

高校で習う「数学」「情報」の内容を比べて、今の教科書にはない新しい学習分野を見つけ、その学習方法を提案したいと考えています。今はまだデータ整理の段階です。予定としては夏休み中に目次を完成させたいと思います。（霞本祐一朗）

伊倉ゼミ

伊倉先生のゼミは、大学の図書館にある貴重書を用いて卒論を書こうとしている人が集まっています。パソコンを多少（笑）使える人は、古写本の表紙の文様や群書類従の奥書に出てくる人名をデータベース化したりしています。ゼミは７名（男子１名・女子６名）と少ないですが、その分誰とも話がしやすく、お互いいろいろと相談しながらやっています。（若林由縁）

元木ゼミ

元木研究室は、教材やネットワークがテーマの中心です。演習の時間では各自の進捗状況を報告しあっています。元木研 Wiki というメンバー専用サイトがあり、一人一人が自分の卒論ページを持っています。先生は親身になって相談にのって下さいますが、16 人という大所帯ですので各自の自主性が必要です。就活などでもこういった姿勢が重要になります。皆さんも興味のある研究室へ積極的にアプローチしてみてはいかがでしょうか。（満田優）

卒業論文および所属研究室に関する説明会を開催

７月７日（土）に、３年生を対象に卒業論文および所属研究室に関する説明会を開催しました。各教員より、それぞれの研究室の研究領域・テーマ、現ゼミ生が取り組んでいる卒業論文などの説明がありました。

今後は、９月末に第１回アンケートを実施し、１０月に集計結果の発表。１１月に第２回アンケートを行い、人数調整の上、１２月には所属研究室が決定します。

３年生には、この夏休みの間に、自分が何を研究したいのか、よく考えておくことが求められています。

平成19（2007）年1月–6月

ドキュメンテーション学科・学会活動報告

2月2日（金）

日本新聞博物館・放送ライブラリーを見学

１年生を対象（２、３年生は自由参加）に、横浜情報文化センター内にある日本新聞博物館と放送ライブラリーを見学。日本新聞博物館の「歴史ゾーン」では幕末から現代までに発行された新聞に感心し、放送ライブラリーでは過去の懐かしの番組やＣＭ、重大事件を伝えるニュースを見て楽しみました。

2月5日（月）

インターンシップ事前面談を実施

平成19年度のインターンシップに参加を希望する２年生15名が事前面談に臨みました。本番さながらにスーツに身を包み、志望動機、興味のある職種、特に力を入れて頑張っている授業などについての質問に真剣に答えていました。

２月２７日（火）・２８日（水）

学内企業合同説明会に本学科学生も参加

２日間にわたり、99社の企業を迎えて大学主催の合同企業説明会が行なわれました。本学科の３年生も積極的に各企業のブースをまわり、真剣な面持ちで説明に耳を傾けていました。また、２年生ながら来年の就職活動の参考にしようと早くも参加する学生の姿も見うけられました。

４月２１日（土）

ノートＰＣの貸与及び説明会を開催

１年生全員にノートPCを貸与し、管理者のパスワードの設定とユーザの新規登録などを行いました。早速家に持って帰り、使ってみようという学生もたくさんいました。また、ノートPCの貸与に先立って、タイピングテストも実施されました。

５月１８日（月）～６月２５日（月）

特別実習（インターンシップ）事前指導を実施

今年度特別実習を履修し、夏休み中にインターンシップを体験する学生15名を対象に、事前指導（全４回）を実施。会社の仕事・業種・職種と業界研究の進め方、ビジネスマナー、ビジネス文書やメールの書き方等を学びました。６月には各自の受入企業も決定しました。

※活動報告の詳細は学科ホームページ（http://ccs.tsurumi-u.ac.jp/seminar/docu/documentation/home.html）でご覧になれます。

■第６号は１期生の卒業を記念した特集号を予定しています。原稿・写真を募集しています。編集委員へお問い合せ下さい。

■ 編集委員

〔学生〕4年 大沢悠一・橋本安菜・3年 中澤大輔・目野吉美
2年 白倉弘崇・室屋理恵・1年 水島　康・山内悠加

〔教員〕岡田　靖・伊倉史人

ドキュメンテーション　第５号
平成１９（2007）年７月31日（火）
鶴見大学文学部ドキュメンテーション学会
横浜市鶴見区鶴見2-1-3（〒230-8501）
☎045(581)1001（代表）発行責任者：長塚 隆
http://ccs.tsurumi-u.ac.jp/seminar/docu/documentation/home.html
＊ホームページが新しくなりました。